

Coffee break



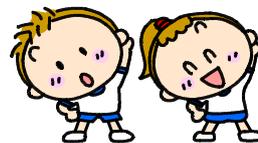
H30. 5. 8 (火)

桶売小学校長 本名 武

NO. 3

運動会

はじめの1秒で分かってしまう



運動会「ラジオ体操第一」はこわいです。動きははじめの1秒で「正しい指導ができてい学校か」否かが分かってしまうからです。

その1秒とは・・・、ラジオ体操第一「1 伸びの運動」の腕を上げたとき。◎手を軽く握り、手のひらが前の方を向いているのが正しい運動の仕方。(×→指を伸ばして手のひら内向き：それは万歳)

最もできていないのが2番目の「2 腕を振って脚を曲げ伸ばす運動」。勘違いをしている人が多い運動。偶数かけ声はじめの一瞬(0.5秒程)だけ踵が地面に着きますが、それ以外、踵は全く着きません。

一事が万事、例えば「ラジオ体操第一」指導の際、かんぼの図解を見たり、朝6:25~Eテレのラジオ体操に関心を寄せたりする構えが、子どもたちに、より質の高い「ほんもの」を与えられる根のように思います。



道徳性の諸様相を育てる「道徳科」



ネイティブアメリカン：チェロキー族に伝わる「二匹の狼」という話があります。

ある晩、長老が孫に語った。

「我々の心の中では、いつも二匹の狼が、闘っている。一方は怒り、妬み、強欲、恨み、劣等感、嘘やエゴの・・・荒れ狂う狼。もう一方は、喜び、平安、愛、希望、謙虚、優しさ、同情心、真理の・・・穏やかな狼だ。」

すると、孫は少し考え、そして尋ねた。

「どちらの狼が、勝つの？」

長老は答えた。

「それは、おまえが餌を与える(育てる)方さ。」



自分の品性、道徳性、社会性・・・「人格は、小さいうちから自分自身で育てるもの」であることを教えているように感じます。

私たちは、ややもすると外側からあれこれと子どもを育てようとしがちになります。

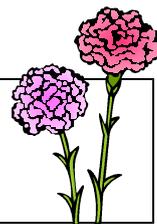
この伝承話のように自分がよしとするものを自分で育てる意識をもたせることも大事に思います。

ある道徳教育研修会でのことです。

受講者：「道徳科になって、これまでの道徳の時間の指導とどう変わるんですか。」

助言者：「それは、あなたが、これまでどんな指導をしてきたかで答えが変わります。」

「ほとんど変わらないかもしれないし、180度変わるかもしれません。」



県教委から「道徳教育推進校報告書」も届いています。授業実践も掲載されています。推進校の実践のよさを積極的に自分授業に取り入れ活用していきましょう。時には「議論はしているが・・・。評論家の如く話すけど自分から離れ、ほんとにねらいにたどり着くのか」という振り返りも。